

1 「地方創生☆RESASフォーラムIN佐渡」～島民<sup>みんな</sup>で実現！佐渡の地方創生～ の開催について

市長

地方創生は島民の皆さまと一緒にという気持ちを込めて、「地方創生フォーラム イン 佐渡」を、5月21日午後1時から「あいぼーと佐渡」を会場とし、内閣府および新潟県の後援を得て開催いたします。

今回のフォーラムでは、「島民」と書いて「みんな」と呼ばせて頂きますが「みんなで実現 佐渡の地方創生」をテーマに、内閣府からのご協力も頂いて、国が開発しましたビッグデータシステムである地域経済システム「リーサス」の活用事例の紹介や、パネルディスカッションを行います。

リーサスの事例紹介では、「佐渡の高校生によるリーサスを活用した政策アイデア発表」として、佐渡高校および佐渡総合高校から参加して頂きます。また、内閣のまち・ひと・しごと創生本部事務局の早田<sup>そうだ</sup> 豪<sup>たけし</sup> 企画官から「リーサスを活用した佐渡市の分析」と題して講演を頂きます。

なお、「パネルディスカッション」では、尾畑酒造の尾畑<sup>おぼた</sup> 留美子<sup>るみこ</sup> さん、相田ライスファーマーの相田<sup>あい</sup> 忠<sup>ただ</sup> 明<sup>あき</sup> さん、旅館浦島の須藤<sup>すどう</sup> 誠<sup>まこと</sup> さんに参加していただき、佐渡の地方創生に対する意見を交換できるものと楽しみにしています。

佐渡の地方創生は、島民の皆さんのご協力、お力が必要であり、島民の皆さんとともに実現するものです。今回のフォーラムに一人でも多くの方に出席していただき、ともに地方創生を目指したいと考えていますので、何とぞ皆さまのご参加をお待ちしています。

2 金井保育園の竣工式および内覧会の開催について

平成26年度より整備を進めて参りました金井保育園が、4月26日に竣工し、先日5月9日より供用を開始しました。

新しい園舎へのスムーズな移行のため、ゴールデンウィークの期間を利用して早期の供用開始を図りました。竣工式は5月20日(金)に、内覧会を5月21日(土)に実施します。

竣工式については、5月20日午前9時30分から10時30分。金井保育園遊戯室にて行います。招待者としまして県議会議員、市議会議員、県佐渡地域振興局長等、約30名の皆さまを予定しています。

内覧会については、5月21日(土)午前9時30分から12時30分まで、どなたでも自由に施設内を見学して頂けます

新園舎の概要を説明します。保育園の定員は200名、敷地面積8,982.44㎡、木造平屋建て延床面積1,980.51㎡、遊戯室が、330.5㎡、園庭が1,321㎡、プールが115㎡、駐車場が1,324㎡で56台の収容が可能となっています。

また、新しい園舎に併設して“かない地域子育て支援センター”と、保護者の皆さんからの

要望が多く、佐渡市内では初めてとなる“佐渡市病後児保育室（定員6名）”も同時に開所しました。

なお、来年4月からは、金井地区の中興保育園と金井新保保育園の3園と統合する計画です。

### 3 第22回全国棚田（千枚田）サミットの参加者募集について

7月14日から15日にかけて、アミューズメント佐渡をメイン会場に「第22回全国棚田サミット」が開催されます。このサミットは、全国の棚田保全に取り組む地域や団体が一堂に会し、棚田の価値を見直すとともに、棚田の持続可能性を高める活動などについて議論を深めるもので、今回は離島としては初の開催となります。

内容としては、里山資本主義の著者でもある 藻谷 浩 介 氏の基調講演、棚田における資源、暮らし、交流をテーマにした分科会、U30（アンダーサーティ）棚田サミットと称した若者限定の分科会、棚田の現地視察、佐渡の郷土料理や地酒、伝統芸能等で交流を深める全体交流会等となっています。

参加費は3千円となりまして、オプションコース、交流会参加は別途料金。詳細な内容や、申込方法等については、佐渡棚田協議会のホームページおよび、島内の皆さまには募集チラシと申込書を5月10日に全戸配布しましたので、ご確認いただき、一人でも多くの皆さまからの参加をお待ちしています。何とぞよろしくお願いいたします。

### 4 全国離島振興協議会通常総会の佐渡市開催について

平成28年度全国離島振興協議会通常総会が、今月23日に佐渡市で開催されます。佐渡市での通常総会開催は、平成17年以来11年ぶりのこととなります。

全国離島振興協議会は、長崎県壱岐市長を会長とし、全国の離島に所在する市町村および離島を有する市町村、合わせて142の自治体で構成する団体です。離島の振興や維持のために必要となる要望や提案といった活動を行っております。

去る4月20日に、「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」、いわゆる「有人国境離島特措法」が成立したのも、国会議員の皆様のご尽力はもちろんですが、全国離島振興協議会として要望を続けてきた成果と考えております。

今回の通常総会には、会員市町村の首長が出席されますが、他にも国会議員、関係各省庁の方々にも現在ご案内しているところでもあります。佐渡市からも、生活に密接に関わるさまざまな要望を提案していますが、平成28年度事業計画などを審議し、離島振興に関する決議を採択する予定となっています。

今総会には総勢108名の関係者から佐渡へお越し頂く予定です。活発な議論が行われることはもちろんですが、この佐渡においていただいた機会をいかしまして、能や鼓童、あるいは羽茂高校郷土芸能部などの皆さまによる佐渡の文化・芸能をご覧頂くとともに、世界遺産登録を進めております佐渡金銀山や、トキなどをご覧頂き、佐渡を深く知っていただき、全国に発信する機会にしたいと考えています。

## 5 佐渡シートゥーサミット2016の参加者募集について

今年で2回目の実施となります。「シートゥーサミット 2016」が6月25日から26日の2日間にわたり開催されます。「シートゥーサミット」は海から山へと自力で進む中で自然の循環を体感していただき、自然の大切さについて考えようという環境スポーツイベントです。島全体がジオパークである佐渡を、五感で感じるダイナミックな大会といえます。

昨年の第1回はあいにくの悪天候でスポーツイベントが実施できず、シンポジウムだけの開催となってしまいましたが、今年は全日程を無事実施し参加者の皆さまから佐渡の自然を満喫していただきたいと思っております。

初日の25日(土)は午後4時30分から、アミューズメント佐渡を会場に環境シンポジウムを行います。第1部は、登山家のゲストを招いて、「山登りで感じる山と自然の魅力」をテーマに、登山・トレッキングだけでなく、釣りなども含めた佐渡の魅力についての基調講演を行います。第2部は「佐渡の環境と市民との共生を考える」をテーマとしたパネルディスカッションを行います。このシンポジウムにはどなたでも無料でご参加頂けますので、ぜひ、市民の皆さまも会場に多数お越しただいて、佐渡の自然環境について一緒に考えていただければと思います。

26日(日)はスポーツイベントを行います。内容はカヤック5km、自転車25km、登山4.5km、全行程34.5kmのコースをリレー式で行い、1人で全てに挑戦するシングルの部門と、5名以下のチームの部門に分かれております。朝7時にカヤックで佐和田海水浴場をスタートし2.5kmで折返しスタート地点に戻ります。次に自転車に乗り換え、佐渡金山を経由し白雲台までバイクで約25km走ります。そこで自転車をおりて金北山山頂を目指して約4.5キロメートル歩く、全長約34.5キロメートルのコースとなります。

4月22日金曜日から募集を開始しています。島内の皆さんからもどんどん参加いただきたいと考えております。

## 6 2016 スポニチ佐渡ロングライド210の開催について

今年で11回目を迎える、「スポニチ佐渡ロングライド210」は、今週15日に開催され、午前5時30分に河原田小学校グラウンドから選手の皆さんがスタートします。

今回のエントリー数は過去最高の3,825名で、うち島外から3,485名のエントリーがあり、海外ではカナダから1名が参加予定となっています。国内では北は北海道から南は沖縄まで日本全国から選手が参加してくれます。平成18年に開催した第1回大会の参加者が933名です。それから比べますと、4倍余りに増えておりまして、1日開催のサイクリングイベントとしては国内最大規模に成長してまいりました。

また、大会前日の5月14日は、午後4時30分から河原田小学校グラウンドで前夜祭が行われ、鬼太鼓などの郷土芸能を披露したり、開会式、ゲストによるトークショー、その後、参加選手を対象とした抽選会などが行われます。

トークショーには、芸人の小島<sup>こじま</sup>よしおさん、元バレーボール選手の益子<sup>ますこ</sup>直美<sup>なおみ</sup>さん、プロ・ロードレーサーの山本<sup>やまもと</sup>雅道<sup>まさみち</sup>さんご夫妻、新潟県元気大使の今井<sup>いまい</sup>美穂<sup>みほ</sup>さんが参加して頂きます。トークショーはどなたでもご観覧いただけますので、市民の皆さまも多数お越し頂きたい

と思います。

大会当日は、多くの市民ボランティアから、コースの誘導やエイドステーションの運営などに協力頂くほか、市民の皆さまには、ノーカーデーについての協力をお願いしています。このように島全体を会場とする大きな大会では、ボランティアスタッフや市民の皆さまのご協力が不可欠でありまして、改めて皆さまのご協力に感謝いたします。

この他にも、沿道での選手へのご声援など、佐渡一丸となって参加者へのおもてなしで大会を盛り上げて行ければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 事前質問

4月に開催された佐渡トキマラソン大会に参加した人たちへの不手際が明らかとなったが、今日までに三浦市長（前・同協会常務理事）はこの件についてこのような報告を受けどのような注意喚起や指導をされましたか？また、今後の再発防止策についてお聞きします。

私が初登庁する前日のイベントでありましたが、このイベントに関する報告としては、

- ・大会当日、天候の急変によって途中で競技が中止となった。
- ・佐渡汽船がその影響で欠航になり、島外から参加された選手並びに応援で来られた方々が帰れなくなったため、主催者側として宿の斡旋を行いました。
- ・宿の斡旋を遠慮された220名の方が、佐渡汽船待合室で一夜を過ごすことになり、その方たちに毛布等を提供した。という3点の報告を受けています。

このトキマラソン、あくまでも天候の急変で、参加選手および大会スタッフの皆さんの安全を確保するためにやむなく競技を途中中止ということになりました。その天候の急変という想定以上の状況下におきましては、可能な限りの対応はなされたものと思っております。

ただ、参加選手およびスタッフへの大会途中中止に関する告知、周知方法等については課題も残ったのは事実です。

この点を次年度以降にいかし、このような場面が発生する時に備える対応マニュアル等しっかり作成して次年度以降の大会に臨もうという事は指示したところであります。

#### 質疑応答

(1)「地方創生☆RESASフォーラム IN 佐渡」～島民で実現！佐渡の地方創生～の開催について  
なし

(2) 金井保育園の竣工式および内覧会の開催について

記者

金井保育園なんですけど、当時朝のラッシュの中であそこの保育園に父母が車を入れにくいとか出しにくいとかいう問題がいろいろありましたけど、昨日見てみると2つ用意してある入口の一方所は小学生が登校するために車を入れられなくて結局入口一方所になってしまっている。この後来年度二つの保育園が入るとかなりの混雑が予想されますがどのように対応されますか？

市長

9日から通園が開始されたばかりですので、その辺のところ実際に登園が始まってからの状況をしっかり観察しながら、どういうふうに対応を変えたりしたほうが良いのかその辺のところをちゃんとして段階的に対応策を踏まえて来年の統合を待ちたい。

記者

それは、でも予期されたことですよ、1カ所が使えなくなりそうだというのは、小学生の登校が始まればそこは優先で通すわけですから、そこはどうなんですか。予想されてたんですか？

社会福祉課長

9日月曜日の登園状況を確認しました。特段混雑というところは無かったんですが、今ご指摘のように小学生の通学というところで保育園側の園庭の入口を一旦封鎖させていただいています。これについては、迂回路をもう一本用意してございますので、そちらからの進入を保護者の方には優先的にお願いし、(徒歩で登校する)小学生の安全を確保しながらというところで今ほど市長がお答えしたとおりです。この後来年度以降の統合についても小学校の生徒の安全性を優先確保する必要性もございまして、通園バス、保護者の協力等々実態に応じて対応策を考えてまいりたいと思っています。

**(3) 第22回全国棚田(千枚田)サミットの参加者募集について**

なし

**(4) 全国離島振興協議会通常総会の佐渡市開催について**

記者

これは普通に取材可能ですか

市長

はい、通常通りの取材が可能です。

**(5) 佐渡シートゥーサミット2016の参加者募集について**

なし

**(6) 2016スポニチ佐渡ロングライド210の開催について**

なし

**(7) 案件以外**

記者

事前質問(トキマラソンの対応)について、課題が残ったというお話しでしたが、具体的にはどのあたりが

市長

報告を受けてる中で言うと、急遽天候悪化の(ため、競技の)中止を大会本部で決定した後、大会スタッフ、参加選手皆さん全員まで告知が行き渡るまでの時間を要したという部分

で説明した。

記者

対応マニュアルを来年以降策定というが、今までは悪天候といった事態になった場合のマニュアルは無かったということか

市長

いや、早朝スタート前の段階で、大会本部で開催決定委員会なるものをイベントでは開いていて、天気予報等も想定しながら開催するか中止するかを決めている。その後もろもろの場面によるマニュアルは存在しています。ただ、あれほど予報を超える天候・雨量が訪れた緊急時に対するマニュアルは過去にも経験が無いこともありそこまでは作りきれていなかった。それは、今回を参考に作らせていただいて次年度以降に備えようということです。

記者

トキマラソンの件ですけども、現場で言ってた話なんですけど、佐渡汽船の待合室に泊まった220人の方なんですけど、本当はせめてカーフェリーに泊めて欲しかったとか、実際宿に泊まりたかったんだけど朝一の出勤しなければいけないので、どうもホテルやタクシーはめちゃくちゃかかるし無いし、しょうがなくてあそこに泊まったんだと言う方もずいぶんいらっやってブツブツ言っていた方もいますが

市長

でもそれについて全て参加者の人数分、近場の両津の中で部屋数を確保できる状況に無いですから、主催者側としては島内で可能な限り宿泊を手配させていただいたと報告を受けていますし、そこで宿泊施設に泊まっていたか泊まらないか、これは参加者のあくまでも自主判断にゆだねるしかない部分もあると思います

記者

しょうがないと

市長

主催者側としては精一杯の対応をしたというふうに考えています。

記者

実行委員会に結構参加選手から不満が出ているんですね。どういうことかということ、三浦市長ではないですが、例えば一番わかりやすいことを2点言うと、かなり忘れ物が毎回毎回これだけに限らずトライアスロンなどいろんな物があつて、それが大会の事務局の中になんかあるというんですね。これが実は1年くらい経ってどうしようもない、半年くらいかもしれないませんが、本来は警察に届け出て忘れ物処理をすべき物なのに、大会事務局の皆さんはそれが一定期間になると自分たちで持ち帰って処理をしていることが何年間もあるということ、警察から委託を受けた古美術鑑定員の人が現場を見て注意をしている。しかし、数日前に大会事務局の責任者だった人に電話して話をしてみたらそんなことやっていないっていうんですね。それは、むしろ大会長が市長なわけですから、担当主幹課の責任であるということ、聞いたんですね。そうすると、皆さんが一生懸命催し物やって受け入れをやって、しかし、選手の分からないところで自分の持ち物が分からなくて諦めると言うことがかなり毎

年あったと、これは事務局が認めている訳ですから、こういう不手際を含めていくと、これは不手際だと思うんですが、やはり市長が替わったわけですからそういうことが無いように指導というのが必要だと思うのですね。もう一つは、今回のロングライドもそうですが、交通事故が起こりやすい、接触しやすい場所に注意を呼びかける看板が出ている、国道沿い八幡のところに、あれは普通の大会関係者だったらもう一步後ろへやってこの先とか表現を付けて変えるべき物なんですけど、わざわざぶつかりそうになる、見えないところにおいて平気なんです。ということは、市がお金を出しているわけですから、実行委員会に対して大丈夫なのかと言うことをもう少し厳しく正確にチェックすべきだと思うんですが、その2つについてはいかがですか

市長

私もスポーツ協会にいましたんで、最初の遺失物、忘れ物については、基本的には事務局サイドの仕事をしているスポーツ協会が遺失物、これまで私が見ている限り、居たときもそうですけど、遺失物については詳細に警察側にもリストを共有しているはずですし、どちらに問合せが来ても対応ができるはずなので、こういう声があったことについては保管している期限とかその辺のところをどう考えるかというのは確認する必要があるかとは思いますが、大会直後から一定期間においては全部リストを警察と事務局が共有しているはずなので保管期間等々について確認はしてみなければならない

もう一つのところについては、ロングライドに限らずトライアスロン等においても毎年毎年もろもろの案内板の位置あるいは実際に道路に直接分かる標識みたいな物をしいた方がいいんじゃないとか、いろんな意見も出ているし、徐々に工夫、是正はしてきているとは認識している。ただ全てこれで安全面において全く問題無い状況でやれているかどうかについて100点と言いきれるかどうかかという微妙な分もあるかもしれませんが、そういう指摘を受ける度に次年度次年度というかたちで改善はしてきていると思いますので、そういう声の前年度あったとすれば今年についてもその対応は事務局側で協議をしているはずですのでその辺も最終確認をすることで、そこが今年もし繰り返すようであれば次は必ず是正するというのは、早急に大会後に次年度に向けての反省材料として束ねておく必要がある。

記者

市長就任から一か月が経ちましたけれども、実際の現場、初めて市長職をやってみての感想と、就任当時、職員の皆さまには市民が来た時に「いらっしゃいませ」、「おはようございます」をやってもらえると話していたが、実際にどの程度出来ているかその辺を教えてください。

市長

あくまで私は、ご挨拶、お客さんについてのご挨拶については、業務命令というよりも要望という形である時はさせて頂きましたし、これは自発的にそういうふうに、雰囲気やまを職員側が作り出さなくてはならないということで、あくまで業務命令にはしてません。ある程度のそういう対応は現状の職員の皆さまにはして頂けるという認識はしています。今後さらにはここが徹底されればいいですし、可能な限り業務命令という最終手段を使わなくていい

いように見守りたいというふうに思っています。

記者

一か月経ってみて携わってみた感想みたいのものをお願いします。

市長

そこは色々と感じることがあります。様々な部門のレクも受けてまいりました。その中で概要、それぞれ状況説明及び私なりの疑問点も指摘させて頂いたりしてます。それについては、あくまでもすぐ対応できるものとそうでないものもありますし、例えば、こちらからまず具体的をお願いして早急に準備して頂いているのは、各支所・サービスセンター単位に年間を通じて恒常的にその地区地区の市民の皆さんの声や要望をどうやって拾い上げるスキームを作れるか、その辺は支所・サービスセンター長を中心にそれぞれ独自にアイディアを出してくださいということで今お願いして、6月に入ればそれを全部まとめて、支所長・センター長も全部入れての今後のスキーム作りのミーティングもスタートする予定になっておりますし、そういうふうにまずやれるものから一つずつやっていて、今までとちょっと違う視点を職員にも持って頂こうと思っています。

記者

庁舎の見直し、新庁舎。これについては、合併特例債を適用するには今年度中の本設計と、出来たら入札ぐらいまで行った方が良くと思いますが、急ぐ課題だと思うのですが見直し進めていますか。

市長

全部その部分については、細かく今報告を挙げて頂いておりまして、それを踏まえて本当にこれから短期間の間に最終的な方向性の結論をこちらとして出すつもりで今、検討真っ最中というところです。

記者

結構大幅な減額というか出来そうな項目というのはありそうなんですか。

市長

その辺も含めて全部詳細をこちらで固めた上での公表にさせて頂きたいと思います。

記者

いつ頃までを目途にしていますか。

市長

そんな手間取れないのでこの1か月2か月の間で決めなければいけない話です

記者

それは、会見というか報道にも内容を一齐に出して頂けますか。

市長

報道もそうですし、あくまでも去年までも議会も特別委員会まで開いて頂いてやってきたことなので、その議会の皆さまへの説明もしっかりしなくてははいけませんし、その辺全部含めてちゃんと段取りを踏んで公表という形にもっていきたいと思っています。

記者

今の件で熊本地震で庁舎が壊れていたりしている状況を見て、やはりそれなりに経費が掛かるのかなという考え方もあるというのはどうでしょうか。

市長

かけなきゃいけない経費とそうでない経費というものの線引きをしっかりとやりたいということが基本的な考え方です。

記者

新庁舎の話でけど、まだ公表は先だと思うですけど、色々今報告受けている段階でやはりかかり過ぎだというお話聞いて印象を持っていますでしょうか。

市長

かかり過ぎだというか、そういう設計になってたんだなというふうには印象はあります。

記者

見直しは出来そうなんですか。

市長

見直し含め、少なくともあの通りを限定にする考え方ではなく結論出したい、というふうには思っていますが、詳細についてはまだ。

記者

今段階では、報告受けている段階ということで、それでかなり詳細な設計とか固まると思いますが今段階ではストップしている段階というか、実際にどうなんですか。

市長

ゴー、ストップを含めた結論を検討中ということです。

そのトータルの詳細な部分を全部報告として頂いたし、見積り的な話も含め、いつまでに方向をきっちり結論を出さなくては合併特例債も絡んで竣工が間に合わない等々も含めたスケジュール部分も全部説明は受けました。

記者

シートゥサミットなんですけど、去年見事に全部できなかった訳で、この梅雨の時期に、今頃聞いてもしょうがないけど、大丈夫なんですかね？これから天候の変化なんかでマニュアル作るって話しですが大丈夫ですか

市長

競技そのものでいいますと、海も陸も山も使ったりすると言う意味では例えば海を使うことを言えば~~ロングライド~~（訂正：トライアスロン）もオープンウォーターもそうですし、常にこういう屋外のスポーツイベント系の物は全てにおいて天候に左右されるリスクは常に抱えて運営しているものですから、シートゥサミットが大丈夫なのか云々というものでも無いと思います。

記者

北朝鮮のこの前の発表でも拉致問題には触れてないわけですね。三浦市長になって曾我さんにはどのような話しをして、拉致問題についてはどのような方向で行こうというような気持ちになっているのでしょうか

市長

曾我さんとはすでにこちらへも来ていただいてお話しもさせていただきましたし、一昨日も私自身ご挨拶を兼ねて内閣府へ行ってまいりました。そこで元市長の高野さんもご一緒いただいたんですが、改めて内閣府の拉致問題担当の事務官の方々も入れ変わったりしてましたんで、改めて今後あの件が発生した当時同様にですねあの頃は国と市が直接やりとりできる環境があったし、それが県が挟まったりとか、少しずつズレてきているのでこちらとしてはあくまでも被害者当事者が居る市ですので、あくまでも国側と市と直接の情報のスピーディなやりとりを改めて再度スタートさせてくださいというお願いはしてまいりました。それについてはひとみさんにもお伝えしています。

記者

曾我さんはどんな反応でしたか

市長

彼女の方は今動きが止まって居る部分については彼女も残念がっていました。実際まだお母さんが行方不明のままの家族の立場ですので、曾我さんの方は可能な限りこの拉致問題を日本の皆さんに忘れられないように可能な限りの場所で自分の体験なり語り続けていきたいというふうには言っています。

記者

市長就任されるときにすぐできる事として職員による意識改革を一つ上げていましたが、話しとか、考えを聞いてみたいとおっしゃっていましたが、これはいかがですかやってみたこととか感想があれば教えてください。

市長

就任してすぐに、全職員に書き方もお任せしますが最低1人1個以上の行政・役所の中を含めた改善点を全員出して欲しいとお願いしましたが、1週間弱の期限を切っただけで、500を超える改善点等のアイデアが上がってきている。一つ一つ空いた時間を見つけてながら読ませていただいている最中です。

記者

それを受けて感想などの印象は

市長

ここはまっさきに手を付けた方が良くないかとか言うものもありますし、それを含めて早くできる物はやっていきたい。

今、頭ですぐ思いつく範囲で言いますと、ペーパーレス化を課題に挙げている職員の皆さんもかなり居ましたし、その辺についても工夫すればかなり削減できるかと思えますし、その編はある程度やっていける。その一方長年の流れの中でなかなかそう簡単には時間をかけ

